

.....編集後記.....

◆3月10日付けで小川克郎前所長に代わって佐藤壮郎所長が就任しました。就任挨拶にもありますように、21世紀に向けてあと数年、地質調査所も新たな時代に向けての準備に取りかからなければならぬように思われます。地球科学の知見が一国の資源開発や土木建設の技術を支えるだけでなく、世界の人々が等しく豊かで安全に暮らす権利を保障する科学として、いまや国際間の安全保障の基準の役割すら果たしているように思われます。このような時代の地質科学の役割はなにか、どのような情報が必要とされているのか、そのための調査・研究開発はいかにあるべきか。地質ニュースもこれらの問題に関するフォーラムとして貢献していきたいと考えます。

◆前号につづき本号でも過去の環境変遷に関連した3編の論文を掲載しました。環境変遷の研究には実に多様なアプローチがあるものだとますますながら感嘆します。そのどれもが変動する地球とそれに対する環境の応答の仕方をダイナミックに記録しているところが環境科学のポイントでしょうか。

◆私たちがごく身の回りにも、環境の変化が知らず知らずのうちにしかし確実に訪れています。日本水

紀行(近畿)では、さすがに歴史の古い地域だけにそのリアルさに驚かされます。環境変化の要因は何だったのか、どのようにすれば予測と管理ができるのか。多くの課題が残されています。

◆ライマン雑記もいよいよ10回となり、北海道踏査の迫真の再現は、時代を超えて変わらない地質科学の原点を思い出させるものがあります。そして、近頃かましい表面だけの国際交流とは質の違う、大地に対する、人々に対する深い愛情。ライマンと著者のイメージを彷彿とさせるものがあります。

◆表紙・口絵写真は100年に亙る鉱山開発の歴史の紹介です。ここでみられる資源産業の新しい展開は、西山 孝著「資源経済学のすすめ」(中公新書)にもあったように、21世紀における人類発展のもう一つの課題に違いありません。

◆「私の推薦する天然記念物」と「抜けにくいハンマーの試作品」をご寄稿下さった酒井禮男氏と宇留野勝敏氏に厚く御礼申し上げます。これからも皆様から、身近な話題や提案等をふるってご寄稿下さいますようお願いいたします。

〈編集委員長 小玉喜三郎記〉

地質ニュース編集委員会

委員長：小玉喜三郎

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

野田徹郎・吉井守正・豊 遙秋・佐藤悠生

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(畠山浩之・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地 質 ニ ュ ー ス	第476号 1994年 4 月 号
	定価 ￥770 千 実 費
1994年4月1日 発行	
編 集	工業技術院地質調査所
発 行人	林 久 雄
発 行 所	株式会社 実業公報社
	東京都千代田区九段北1の7の8
	〒102
	Tel. (03)3265-0951 (代表)
	振替口座 東京00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印 刷	小宮山印刷工業株式会社

©1994 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。